バレーボールの歴史に関する研究

井ノ口　貴斗（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　新井　博

キーワード：　バレーボール，リベロ，歴史

1. 緒言

リベロとはバレーボールでは，守備専門のプレイヤーのことを言う．語源としては，コートの中に「自由」に出入りできることからきている．

この研究の動機は，今現在バレーボールを行っているが，リベロ制度の良さと悪さについて一面的にしか理解できていない．リベロ制度が導入されたことによりどのようにバレーボール界が変わっていったのかを調べようと思った．

研究の目的は，リベロ制度がいつ頃導入され，バレーボール界がどのように変わっていったのかを明らかにする．

仮説としては，リベロ制度が導入されたことにより，低身長者にも活躍する機会が増え，バレーボール人口が増えていったと思われる．また，リベロ自身にはフラストレーションがたまりやすいと思われる．

2. 研究方法

本研究は，文献調査を行う．それにあたっては雑誌，バレーボールに関する図書，新聞などから，リベロに関する記事を収集しまとめる．

3. 結果・考察

バレーボールが日本に伝わってから今日までの歴史を振り返ると，これだけものルール改正が行われてきていた．ルール改正にはすべて何らかの目的があることも分かる．「バレーボール」が日本に導入されてすぐは，誰もが楽しめる娯楽として行われていたが，ルールの改正が進むにつれて，娯楽という概念を覆すかのように競技性が高まっていった．このことから「バレーボール」は，やるスポーツから，観るスポーツになっていったのではないかと考えた．

私が注目していた「リベロ制度」には低身長者の人にも活躍の機会を与えるといったことを目的にしていることも分かる．「リベロ制度」導入されてから変っていったのはバレーボールに参加する人の身長だけではなく，戦術的な変りを見せていったこともわかる．レシーブ専門のプレイヤーがコートに入ることによって，レセプションの成功率も上がっており，セッターにボールが返ることが多くなっていった．そのためクイック，パイプ攻撃といった新しい戦術を見つけることが出来たのだと思う．

そのルールに慣れだしたころにまた新たなルールができ，次のルールに慣れだしたころにまた新しいルールができる．

このように時代にあったルールへと改正されていき，人が飽きることのない，スポーツへと変化していった．

4. まとめ

この研究を始める前に，仮説で立てていた「リベロにはフラストレーションがたまりやすい」ということに関しては，文献調査だけでは結果を得ることが出来なかった．リベロ自身の本音，心境を理解するには，インタビューやアンケート調査も行えばよかったと反省している．

リベロ制度の導入によりどのようにバレーボール界が変っていったかについては，歴史の年表を見ることで変り方，なぜそのようなルールができたかといったことを調べることが出来たので充分理解できた．

この研究を通してこれから先，新たにルールが増えることは目に見えている．その中でバレー人口がもっと増えていくようなルール改正が行われることを願いたいと思う．また，新たな戦術や技術が増え，今以上に観ていて，やっていて楽しいバレーボールになっていくことを願う．

【引用・参考文献】

・向川原悌二（2012）日本バレーボール学会設立 15 周年記念出版
Volleypedia バレーペディア[2012 年改定版]日本文化出版